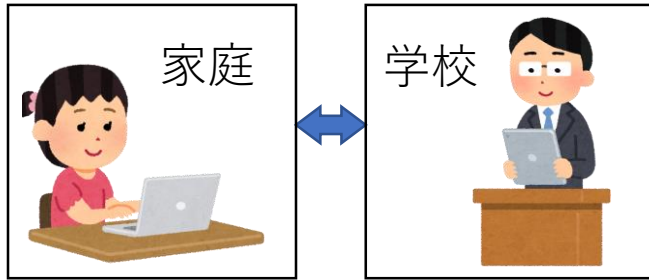


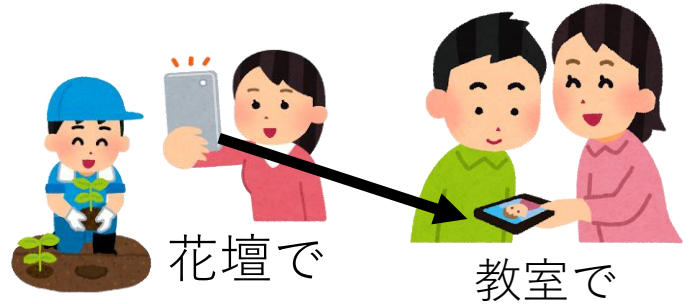
オンライン授業の進め方（例） No. 1

Wi-Fi環境やモバイルルーターを活用し、学校と家庭や校内の別の場所を端末同士でつなぎ、対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育を行うことで、個別最適な学びと協働的な学びを展開していきましょう。

学校と家庭をつなぐ



校内をつなぐ



臨時休業時に

- ・児童生徒が家庭に端末を持ち帰り、オンライン会議システム（Google Meet等）を利用して、コミュニケーションをとりながら健康観察したり、学校からの連絡を伝えたりしていきましょう。
- ・学習支援ソフトウェアを利用して、休校や学級閉鎖等で発生した学習遅延への対応をしたり、既習内容の復習に活用したりしていきましょう。

授業で

- ・屋外での観察の場面で、様々な生き物や植物について、インターネットを活用してその場で調べたり、離れた場所にいる教師に質問したりしていきましょう。
- ・理科室や体育館、校庭など、様々な場所で同時に実験を行い、様子の違いやデータをリアルタイムで共有し合うなど、児童生徒同士でデータを共有できるようにしていきましょう。

家庭学習で

- ・学習支援ソフトウェアを活用して、動画教材の視聴やドリル教材への取組を課題として出してみましょう。これにより、児童の取組状況や正答率等を事前に確認し、次の日の授業で活用することができるようになります。
- ・学校の活動に制限のある学習（調理実習等）を家庭で行い、手順や作業の様子を動画で撮影し、そのデータを提出させることで、児童生徒の学習状況を把握しましょう。

教室と別室で

- ・教室で通常行っている授業に、別室（保健室・相談室や特別支援学級等）からでも、リアルタイムで参加できるようにしていきましょう。
- ・児童集会や生徒総会等において、別室で発表を聴いたり、アンケート機能を活用した意見交流を取り入れたりするなど、児童生徒主体の行事等で活用していきましょう。

留意点

- ・保護者の理解を得るための対応や説明を十分に行うことが必要となります。
- ・学校や家庭で使用する際のルール作りや、保護者へのリテラシーについての指導が必要となります。
- ・破損への対応（保険等）に係る保護者への説明が必要となります。

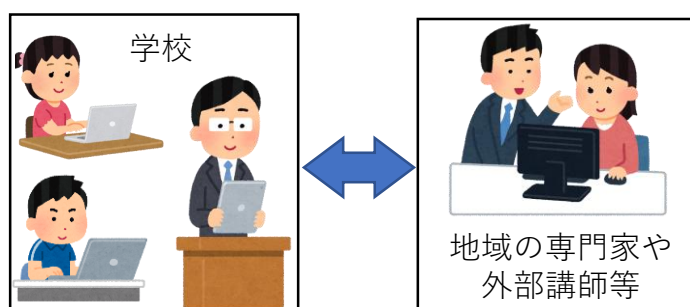
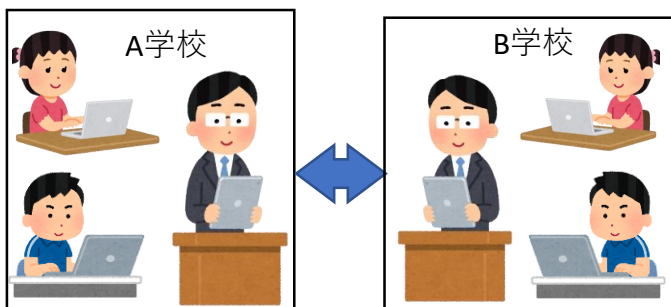
留意点

- ・校外で使用するためのモバイルルーター等の通信環境の整備が必要となります。
- ・端末を活用できる十分な通信量の確保が重要となります。
- ・ネットワーク接続や機器動作のトラブルが発生した際、授業が停滞しないような対応が必要となります。

オンライン授業の進め方（例）No.2

学校と学校をつなぐ

学校と社会をつなぐ



離れた学校と

- ・複数の学校をつなぎ、特定の教科・科目の教師が、複数の教室に向けて専門性の高い授業が行えるような場を設定してみましょう。
- ・小規模校同士や小規模校と大規模校をつなぎ、小規模校では難しい多様な意見に触れ、協働的に学ぶ場の設定をするなど、既存の学校行事や集会などでのつながりを生かした学習を行ってみましょう。
- ・異なる学校の学年同士や特別支援学級等をつなぎ、交流活動や、学習成果の発表等をする場の設定をしてみましょう。

地域と

- ・地域の商店や農家の方々とつなぎ、情報や知識を得たり、お世話になった方々に学習の成果を伝えたりしてみましょう。
- ・直接訪問することが難しい、漁業や農業、工業に遠方で従事する方々とつなぎ、実際の仕事の様子や雰囲気を感じたり、話を伺ったりしてみましょう。

違う校種と

- ・小学校と中学校や特別支援学校など、異校種同士をつなぎ、学習内容の発表や交流、進路についての情報を得たり相談したりする機会を設定してみましょう。
- ・特別活動や総合的な学習の時間、児童会・生徒会活動等で交流や意見交換を行い、協力して文化祭や学校行事などを開催するなど、これまでの取組を工夫してみましょう。

専門家と

- ・博物館や大学、企業などをつなぎ、講義を受け、専門家の情報を得たり、質問したりしてみましょう。

海外の学校と

- ・海外の学校をつなぎ、様々な文化に触れたり、英語でコミュニケーションを図ったりする機会を設定してみましょう。

留意点

- ・接続先との連絡・調整や、接続先の通信環境を確認して準備し、当日の学習を行う必要があります。
- ・ネットワーク接続や機器動作のトラブルが発生した場合の対応を考えておく必要があります。

全ての子供たちの学びを保障するために

- ・自宅や教育支援センター、病院等をつなぎ、不登校や学校に登校できない児童生徒等が授業や学校行事等に参加できる機会を増やしてみましょう。
- ・外国にルーツをもったり日本語指導を必要としたりしている児童生徒に対し、他校のALTや通訳をつなぎ、必要な情報を提供したり、日本語指導の時間をより多く提供したりしてみましょう。